

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

2018年11月16日

第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会

自閉症関連分子SHANK3アイソフォームにおけるスプライシングバリエントの解析

○※横森将輝、和賀央子、※清水仁美、平澤孝枝、内野茂夫（神経生物学研究室）

2018年11月14日から16日に、東京ドームホテルにおいて第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会が開催され、大学院生1年の横森将輝（平澤研）がポスター発表を行った。重篤な知的障害・言語障害を主徴とする自閉性障害であるPhelan-McDermid 症候群の責任遺伝子であるSHANK3 遺伝子は、シナプス機能分子をコードしている。これまでの研究から、22個のexonからなるSHANK3遺伝子内には複数のプロモーターが存在し、多様な選択的スプライシングが起こることで、様々なアイソフォームが発現していること報告されているものの、その分子構造は明らかにされていない。本研究では、SHANK3dおよびSHANK3eアイソフォームの分子構造の解明を目指し、大脳皮質サンプルを用いてRT-PCR法にて各アイソフォームのトランスクリプトのクローニングを行った。その結果、両アイソフォームともに、選択的スプライシングにより複数のトランスクリプトが存在していることが判明した。

